

母親の意識「変わった」

2010. 11. 2 5

今年の新型インフル流行で

インフルエンザ流行期を前に、健康日本21推進フォーラム（理事長、高久史麿自治医科大学長）は、今年8月末、過去1年間にインフルエンザ（新型、季節性）にかかった子ども（20歳未満）を持つ全国の母親1千人にインターネットでアンケートを実施した。

その結果、昨年大騒ぎした新型インフルエンザについて、9割近くが「怖いと思った」と答え、予防に対する意識も7割が「変わった」と回答し、予防や早期治療の重要性の認識が高まったことが分かった。

まず、子どもの予防接種の有無を聞くと、新型、季節性の両方、または片方のみを合わせて51.7%、約半数の子どもが予防接種を受けていた。

予防接種以外の予防策については「帰宅時にうがい、手洗いをした」が86.5%となり（複数回答）、うがいや手洗いが広く浸透していることを示していた。

昨年の新型については、「非常に」「少し」を合わせ、86.9%が「怖いと思った」と答え、特に若い母親ほど怖さを感じていた。

新型経験後の意識の変化を聞

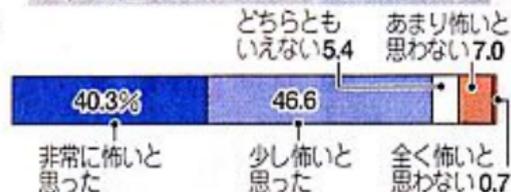
くと、「非常に」「少し」を合わせ、70.3%が「変わった」と回答していた。

子どもがインフルエンザにかかって困ったことを複数回答で聞くと、「熱が下がるまで目が離せなかった」50.1%、「家の中で子どもと家族が接触しないようにしたこと」49.8%が高く、続いて「自分が仕事を休んだ」が31.3%だった。

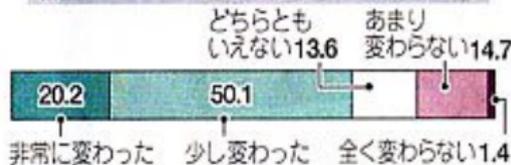
今年の流行予測について聞く

新型インフルエンザに対する意識
(20歳未満の子どもを持つ母親1000人が対象)

昨年の新型インフルエンザを怖いと思ったか



新型インフルエンザの経験後の意識の変化



と、「非常に」「たぶん」を合わせ、「猛威を振るうと思う」が40.6%だったが、34歳以下の若い母親では53.3%と高く、今シーズンも流行の警戒をしている様子がかがえた。